

研究課題

「伝統・文化に関する教育」の充実に向けて箏を活用した授業の可能性

副題

～授業で使える教材DVDの開発～

学校名	大阪府教育センター
所在地	〒558-0011 大阪市住吉区菟田4丁目13番23号
職員数/会員数	154名
学校長	川村 幸治
研究代表者	恩知 理加
ホームページ アドレス	http://www.osaka-c.ed.jp/



1. はじめに

今次の学習指導要領改訂における改善事項の一つに、「伝統や文化に関する教育の充実」があげられ、中央教育審議会答申においては「国際社会で活躍する日本人の育成を図る上で、我が国や郷土の伝統や文化を受け止め、そのよさを継承・発展させるための教育を充実することが必要である。」と述べられている。このことを踏まえ、大阪府教育センターでは、パナソニック教育財団第36回実践研究助成『一般』の委嘱を受け、現場の教員や邦楽の実演家の方々と連携し、「『伝統・文化に関する教育』の充実に向けて、『箏を活用した授業の可能性』について研究・研修及び指導方法等の開発を進めてきた。

2. 研究の目的

新しい学習指導要領では、「伝統や文化に関する教育」の充実が示された。中学校音楽科及び高等学校芸術科（音楽）に関しては、和楽器の指導において、「簡単な曲の表現を通して、伝統音楽のよさを一層味わうことができるようにする」ことが求められている。さらに、創作活動の指導については、「音楽をつくる楽しさを体験させる」観点に留意するよう、改善が行われた。

大阪府教育センターでは、平成13年度から、和楽器に関する研修を実施し、教員の指導力向上を図ってきた。一定の成果を上げる一方で、「さくらさくら」（日本古謡）に続く教材づくりや創作活動の指導法の充実が課題となっていた。

そこで、平成21年度には、和楽器「箏」の実践研修にお

いて、「伝統や文化に関する教育」と「創作活動」の両方の活動を取り入れた授業を提案し、受講者から高い評価を得ることができた。

本研究においては、平成22年度の研修を「箏を活用した授業の可能性」をテーマに実施することを中心として、平成21年度の研修受講者による箏曲作品の電子データ化及び演奏と授業実践付きDVDを作成し、今後の学習活動における教材として、また、創作活動の学習プログラムとしてより多くの教員に提供したいと考えた。

3. 研究の方法

研究構成メンバー	本研究に関する役割
実演家 3名	教材作成、演奏、教員研修講師
大阪府高等学校 教員 2名	学習指導案作成、演奏、授業実践、 府内学校への広報
大阪府教育センター 指導主事 2名	教材作成、本研究全般の企画・まとめ、 授業への指導助言

実演家、教員及び府教育センター指導主事が連携し、それぞれの専門性を生かしてこれまでの研修の成果をICT教材へ再構成した。学校現場のニーズにこたえ、音楽の授業に生かせる教材となるように研究を進めた。

4. 研究の内容

(1) 平成22年度中学校・高等学校「伝統・文化に関する教育」研修（音楽）の実施

箏の奏法及び歴史的な背景を学び、「箏を活用した授業の

可能性」をテーマに子どもたちが「思考・判断し、表現する」過程をイメージしながら、教員自身が表現する喜びを味わうとともに創作の過程を体験する。

(2) 学習指導案の作成

研修成果を生かし、箏を活用した創作活動の学習指導案を作成する。

(3) 収録作品の検討会議

実演家の方を構成員とする検討会議を実施し、記譜法等の指導を受けながら、研修の成果物（作品）を学校や子どもたちの実態に応じた内容に再構成する。

(4) 作品の楽譜化及び電子データ化

作品を電子データ化する。将来的には、電子データをもとに、各学校現場で子どもたちの実態に応じ編曲し、加筆・修正可能な汎用性のあるものとする。

(5) 演奏録画

作品を楽曲の難易度に応じ、〔生徒編〕、〔実演家編〕に分けて録画する。

(6) ICT教材の作成

内容は〔研修編〕、〔授業編〕及び〔作品編〕の3部構成とした。さらに、それぞれの各編について文字媒体で著した冊子とその様子が分かる映像を1枚のDVDに編集した。

5. 研究の経過

時 期	活 動
平成 22 年 6 月	平成 22 年度中学校・高等学校「伝統・文化に関する教育」研修の全体構成を検討し、平成 21 年度研修受講者による創作作品から研修教材を選択する。
8 月	平成 22 年度中学校・高等学校「伝統・文化に関する教育」研修を実施する。研修内容を録画し、概要を DVD に編集する。
10 月	大阪府教育課程研究協議会において、研修の様子及び成果物の作成・配付について紹介する。
11 月～	平成 21 年度研修受講者による授業を動画付き学習指導案に編集する。
平成 23 年 2 月	研修における創作作品を箏の楽譜データ及び実演 DVD に編集する。 作品は、「楽調子による作品」24 曲、「合奏曲」9 曲とする。
5 月	大阪府内中学校、高等学校及び支援学校へ配付する。

6. 研究の成果と今後の課題

研修受講者の評価及びアンケートでは、箏の基本を学んだことにより自信をもって授業計画が立てられること、教材研究が十分できたこと、伝統・文化への関心と理解が深まり、そのよさを子どもたちに伝えたいと考えていること、研修のテーマ「箏の可能性」に気付き、今後の授業へ広がりをもてたことなどが多くあげられている。

教員にとっては、今次改訂のキーワードである「伝統や文化に関する教育」と「創作活動」の指導の充実に、子どもたちにとっては、我が国や郷土の伝統音楽を理解し愛着をもち、それを基盤として、諸外国の様々な音楽を尊重する態度を育成することにつながるものとする。さらに、本研究の教材プログラムに沿って創作活動を体験することは、新たな作品を創造する機会となる。本教材 DVD を活用した授業実践について、研修会や相談会等で伝達し、普及に努めたい。

7. おわりに

本研究の成果物として、作品、演奏 DVD 及び創作指導プログラムが一体型となる教材を提供することにより、指導のねらいが明確で、学習活動の流れが分かりやすい指導資料として各学校現場での活用が期待できる。各学校においては、是非活用いただき、御感想や実践の御提案をいただければ幸いです。



図1 成果物の概要

